

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開実用新案公報 (U)

(11)実用新案出願公開番号

実開平6-75507

(43)公開日 平成 6 年(1994)10月25日

(51)Int.Cl.⁵

A 6 1 M 25/00

識別記号

4 6 0

庁内整理番号

9052-4C

F I

技術表示箇所

審査請求 有 請求項の数 3 O L (全 2 頁)

(21)出願番号 実願平5-17150

(22)出願日 平成 5 年(1993) 4 月 6 日

(71)出願人 000237042

富士システムズ株式会社

東京都文京区本郷 3 丁目23番14号

(72)考案者 小磯 敦

東京都文京区本郷 3 丁目23番14号 富士システムズ株式会社内

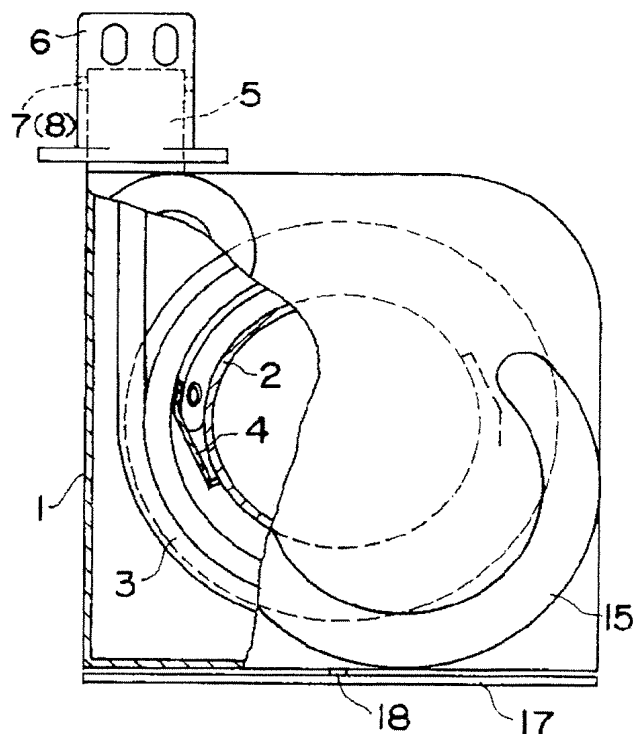
(74)代理人 弁理士 佐田 守雄 (外 1 名)

(54)【考案の名称】 カテーテルの巻取収納装置

(57)【要約】

【目的】 カテーテルを折り曲げることなく、簡単に巻き取ってケース内に収容することができ、しかも使い勝手がよくて携帯に便利な巻取収納装置を提供すること。

【構成】 カテーテル 3 の挿入口 5 を有し、該挿入口以外は密閉構造のケース 1 を具え、このケース内にカテーテル 3 をその先端部を係合して巻き取るリール 2 を回転可能に収容し、このリールを回転するハンドルをケースの外部に設けている。挿入口 5 にキャップ 6 をリールに巻き取ったカテーテルの後端部を係合して密閉装着している。



1

【実用新案登録請求の範囲】

【請求項1】 カテーテルの挿入口を有し、該挿入口以外は密閉構造のケースを具え、このケース内に前記カテーテルをその先端部を係合して巻き取るリールを回転可能に收容し、このリールを回転するハンドルをケースの外部に設け、前記挿入口にキャップをリールに巻き取ったカテーテルの後端部を係合して密閉装着したことを特徴とするカテーテルの巻取収納装置。

【請求項2】 ケースに吊下用フックを取付けた請求項1記載のカテーテルの巻取収納装置。

【請求項3】 ケースを略直方体に形成してそのリールの外周面と対向する側壁に挿入口を設けているとともに、該挿入口と反対側の側壁に該側壁とほぼ同じ大きさの脚プレートをその中央部に設けた軸によって回転自在に設けた請求項1又は2記載のカテーテルの巻取収納装置。

【図面の簡単な説明】

【図1】 この考案の一実施例を示す一部破断の正面図で

ある。

【図2】 図1のキャップを取り外した状態の正面図である。

【図3】 図2の一部破断の平面図である。

【図4】 自己導尿用カテーテルの一部省略の正面図である。

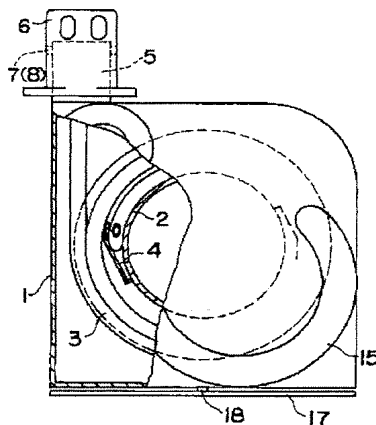
【図5】 図3のA部拡大断面図である。

【図6】 作用説明用斜視図である。

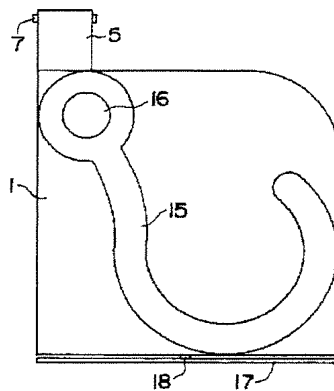
【符号の説明】

- 1 ケース
2 リール
3 自己導尿用カテーテル
4 係合片
5 挿入口
6 キャップ
11 ハンドル
15 フック
17 脚プレート

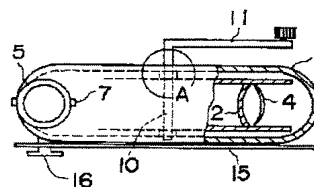
【図1】



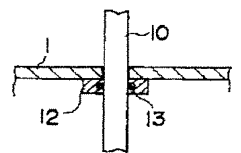
【図2】



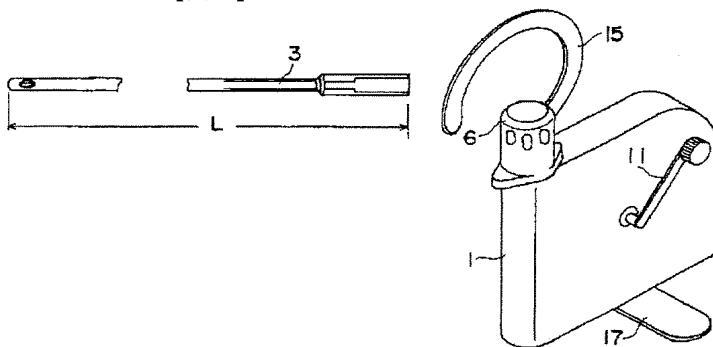
【図3】



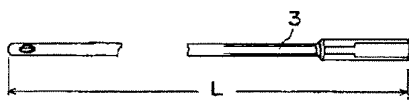
【図5】



【図6】



【図4】



【考案の詳細な説明】**【0001】****【産業上の利用分野】**

この考案は、カテーテルを密閉構造のケース内に巻き取って収納する装置に関するものである。

【0002】**【従来技術】**

従来この種の装置としては、例えば実公平3-34170号公報の自己導尿用具が知られている。

【0003】**【考案が解決しようとする課題】**

ところで、前記従来のものにおいては、カテーテルを容器本体に收容して携帯する際、容器本体をその中央部に設けた屈伸部で折り曲げるため、カテーテルの中央部も折り曲がり、曲がりくせがついて使い勝手が悪いという問題があった。また容器本体を1箇所では折り曲げではいるものの、やはりカテーテルを收容する容器本体としては長く、携帯しにくいものであった。

【0004】

そこでこの考案は、前記のような従来の問題点を解決し、カテーテルを折り曲げることなく簡単にリールに巻き取ってケース内に收容することができ、しかも使い勝手がよくて携帯に便利な巻取収納装置を提供することを目的とする。

【0005】**【課題を解決するための手段】**

前記の目的を達成するため、請求項1の発明は、カテーテルの挿入口を有し、該挿入口以外は密閉構造のケースを具え、このケース内に前記カテーテルをその先端部を係合して巻き取るリールを回転可能に收容し、このリールを回転するハンドルをケースの外部に設け、挿入口にキャップをリールに巻き取ったカテーテルの後端部を係合して密閉装着している。

【0006】

請求項2の発明は、請求項1において、ケースに吊下用フックを取付けている

。また請求項3の発明は、請求項1又は2において、ケースを略直方体に形成してそのリールの外周面と対向する側壁に挿入口を設けているとともに、該挿入口と反対側の側壁に該側壁とほぼ同じ大きさの脚プレートをその中央部に設けた軸によって回転自在に設けている。

【0007】

【作用】

カテーテルをケース内に収容するには、該カテーテルの先端部を挿入口からケース内に入れてリールの外周面に適宜の方法で係合させたうえ、ハンドルによりリールを回転し、カテーテルを巻き取る。そしてカテーテルが後端部近くまで巻き取られたら、該後端部をキャップに係合し、この係合したキャップを挿入口に装着する。

【0008】

【実施例】

図1はこの考案の一実施例を示す一部破断の正面図、図2は図1のキャップを取り外した状態の正面図、図3は図2の一部破断の平面図である。1は合成樹脂等で形成された略直方体のケースであって、全体としてワイシャツの胸のポケットに収まる程度の大きさとなっている。ケース1の内部にはリール2が回転可能に収容され、該リールには自己導尿用カテーテル3がその先端部をリール2の外周面に設けた係合片4に挿し込み係合して巻き取られている。この例ではカテーテル3の先端部を係合片4に挿し込むようにして係合しているが、係合できるものであればほかの係合手段を用いてもよい。またこの例では係合片4を2個設けているが、その数も適宜に選択可能である。

【0009】

図4に示すようにカテーテル3の長さLは、男子用、女子用、小児用等により異なるが、男子用では通常30cm位である。リール2の外周面と対向するケース1の側壁、すなわち図1で頂壁にはその隅部に円筒状のカテーテル挿入口5が設けられ、該挿入口にはキャップ6が装着されている。キャップ6は装着に際し、挿入口5の外周面に設けた係止部7とその内周面に設けた係止部8に係止してロックされる。

【0010】

10はリール2の軸芯に取付けられた中心軸で、該中心軸のケース1外に突出した端部にはリール回転用のハンドル11が設けられている。中心軸10が貫通するケース1の側壁には図5にも示すように当板12が設けられ、該当板には中心軸10との間でシール機能を果たすOリング13が装着されている。

【0011】

15はケース1を使用時にトイレのノブ等に簡単に吊り下げられるようにするための吊下用フックで、合成樹脂等で形成され、ケース1の側壁にフランジ付き軸16により抜け止められて旋回可能に取付けられている。図6はフック15を旋回した状態を示している。17はケース1を使用時に倒れないようにするための脚プレートで、合成樹脂等でケース1の底壁とほぼ同じ大きさに形成され、該底壁の中央部に設けた軸18によって回転自在に設けられている。図6は脚プレート17を略90度開いた状態を示している。

【0012】

前記においてケース1内にカテーテル3を収容するには、該カテーテルの先端部を挿入口5から予めアルコールなど消毒液をいれてあるケース1内に入れてリール2の外周面に設けた係合片4に挿し込み係合する。しかる後、ハンドル11によりリール2を回転し、カテーテル3を巻き取る。そしてカテーテル3が後端部近くまで巻き取られたら、該後端部をキャップ6に係合し、このキャップ6を挿入口5に装着し、係止部7と係止部8に係止してロックする。

【0013】

一方、カテーテル3を使用するには、フック15をノブ等に吊り下げるか、又は脚プレート17を略90度開いた状態にした後、キャップ6を取り外し、キャップ6に後端部が係合したカテーテル3をハンドル11によりリール2を逆回転させることにより巻き戻して引き出す。

【0014】

前記実施例は好ましい一例を示したにすぎず、ケース1やフック15、脚プレート17等の構成は図示したもの以外の構成に変更が可能である。また、巻き取るカテーテルは実施例で示した自己導尿用に限るものでないことは言うまでもない。

【0015】

【考案の効果】

請求項1の考案は前記のようにカテーテルをケース内のリールに巻き取って収容するようにしたので、カテーテルが従来のように1箇所で折り曲がることなく、使い勝手がよいものとなるとともに、巻き取りも簡単にできる。またケースも従来 of 容器本体のように長くないから、携帯にも便利である。請求項2又は3の考案は前記効果のほか、使用時にケースを転倒のない、それぞれ所定の姿勢に保つことができる。